

シルクシンポジウムinやまがた2013開催!

9月21日(土)「千歳館」(山形市)において、鶴岡織物工業協同組合などの主催による「シルクシンポジウムinやまがた2013」が開催され、関係者らおよそ40名が参加した。

はじめに、主催者を代表して県蚕糸業会の長谷川健三理事が、続いて来賓として県商工労働観光部商業・まちづくり振興課の丹野和彦課長、大沼みずほ参議院議員、近藤洋介衆議院議員が、それぞれ挨拶した。その後の基調講演では、ミスワールド2012日本代表の五十嵐望氏が、天然素材で人にも自然にも優しく、小さな頃から身近にあったシルクの良さについて触れ、鶴岡シルク・米沢織は東京でも有名であると述べたほか、八嶋敏孝きものやまと会長が、女性の32%が着物を買いたいとの調査結果を披露し、大した業界努力はしていない、着物自体のもつ魅力の大きさと語った。

続いて行われたパネルディスカッションでは、米沢織物商業協同組合の佐藤和男理事長が新蚕種「鷹山」を生かした米沢織について語ったほか、鶴岡織物工業協同組合の大和匡輔理事が鶴岡シルクタウンとキビソプロジェクトについて発表し、「産業が縮小し鶴岡は僅か4社で頑張っている。鶴岡でできないものは山形、山形で駄目なら東北、全国へ、連携して日本のシルクを守り発展させていきたい。」と持論を展開した。

第2部の食の祭典ではSilky Snow桑カクテル・ドリンクや紅花シルクアイス、白鷹産桑茶なども登場し、出席者らは美しい彩の飲物や料理に舌鼓を打っていた。



第36回山形県公共パネル展開催!



10月7日(月)～12日(土)霞城セントラル(山形市)1Fアトリウムにおいて、山形県屋外広告美術協同組合(増田隆理事長)が「第36回山形県公共パネル展」を開催した。これは、組合員から優秀な作品を選出し展示して、社会の弊害となっている問題点を出展作品に表現し、広く国民に訴え、明るく豊かな環境づくりに貢献するとともに、屋外広告業の社会性を強調し、業に対する深い理解を求めることを趣旨に同

組合が毎年開催している。今年は「東北を熱く元気づける」をテーマに組合員から12点が出品された。

今回、審査員は芸工大のグラフィックデザイン科の赤沼明男准教授に依頼し、オリジナリティを重視した評価をして頂いたとのこと。表彰は、来年3月に開かれる25年度組合総会の際に行われる。

なお、冬季山形国体開会式会場にも掲示して欲しいとの依頼が県からあり、国体大会基本目標に掲げられた「東北の元気を発信する大会」にふさわしい展示が2月に再度、見られる予定である。